

令和6年6月28日

市内で「苦味の強いユウガオ」による食中毒が発生しました

長野市内で、自宅で栽培した「苦味の強いユウガオ」を食べたことによる食中毒が発生しました。患者は、自宅で栽培したユウガオを調理して食べた1グループ2名で、食べる際に強い苦味を感じたとのことでした。

なお、患者らは快方に向かっています。

ユウガオに苦みを感じた場合は、絶対に食べないでください。

苦みのあるユウガオを食べて体調不良となった場合は、医療機関を受診してください。

【事件の探知】

令和6年6月27日（木）午後2時頃、市内の医療機関から「苦味の強いユウガオを食べて体調不良を呈した患者を診察し、食中毒が疑われる。」旨、当課あて通報がありました。

【調査結果概要】

○患者は6月27日朝食に自宅で栽培したユウガオを調理して食べたところ、強い苦味を感じ、悪心、下痢、嘔吐、腹痛の症状を呈しました。

○患者の症状は、ユウガオの苦味成分（ククルビタシン類）による症状と一致していました。

○患者を診察した医師から、食中毒患者等届出票が提出されました。

以上から、苦味の強いユウガオを原因とする食中毒と断定しました。

患者関係	発症日時	令和6年6月27日（木） 午前7時30分から
	患者の主な症状	下痢、嘔吐、腹痛
	発生場所	長野市
	発症者数及び 喫食者数	発症者数／喫食者数 2名／2名
	医療機関受診者数	1名（入院中）（受診医療機関数 1か所）
病因物質	ククルビタシン類（推定）	
原因食品	ユウガオの汁物（推定）	

【参考】 長野市における食中毒発生状況（本件含む） （令和6年6月28日現在）

令和6年度発生状況（長野市）	4件	129名
令和5年度同期（長野市）	2件	30名

ククルビタシン類について

【特徴】

- ククルビタシン類は、観賞用のウリ科植物（ヒョウタンなど）に含まれる苦み成分です。
- ごく稀に、食用のウリ科植物（ユウガオなど）に高濃度のククルビタシン類が含まれている場合があります。
なお、ウリ科には、ユウガオの他にきゅうり、かぼちゃ、ズッキーニ、メロンなどがあります。
- 過去にヒョウタンの誤食や苦みの強いユウガオによる食中毒が発生しています。

【症状】

- 食後数分～数時間で口のしびれ、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢を起こします。

【予防方法】

- 食べてみて、強い苦みがある場合は、食べないで廃棄してください。

【参考】

- 自然毒のリスクプロファイル：高等植物：ユウガオ（厚生労働省ホームページ）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000079844.html>

- 長野県内における「苦味のあるユウガオ」による食中毒発生状況（過去10年）

令和元年度	2件	7名
令和2年度	1件	2名

※本日の報道機関からの対応は、午後5時15分までとさせていただきます。

保健福祉部長 長野市保健所食品生活衛生課

（課長）大河内 雅彦

（担当）笠原 美絵

TEL：026-226-9970

FAX：026-226-9981

E-mail：h-seikatu@city.nagano.lg.jp